

教えてください、あななのことを。④

東京都東大和市 ^{なまい} 生井良一さん（嘉悦大学 経営経済学部 教授）

第4回は嘉悦大学・経営経済学部教授の生井先生です。「ご自身の紹介」「ごみ問題に関わったきっかけ」「ごみかんに期待すること」など、いつもの5つの質問にまとめてお答えいただきました。

私の田舎は栃木県二宮町（現・真岡市）で、家は農家でした。ですから、田植えや稲刈りはずいぶんやりました。小学校時代には菜の花の田んぼ、その隣にはレンゲソウの田んぼがあり、そこでよく遊んでいました。これらは64歳となった私のなつかしい心の原風景となっています。

私は学生時代に難病にかかり失明してしまいました。今は盲導犬（アイメイト）と歩いています。市民ごみ大学セミナーに参加するときも一緒です。失明後は、多くの方のご支援をいただきボランティアの方々のご協力を得て、大学の教員となり、これまで環境系を担当してきました。今の盲導犬は「ナネット」と言いますが、大胆なやつで、授業中教壇の上でいびきをかいて寝たりしています。学生たちはこんな姿を見て「いやされます」と言ってくれるのですが。

私のごみ問題に関わった経過は以下のごとくです。およそ25年くらい前だったでしょうか、私はある授業の組み立てを考えていたとき、「生活を取り巻く物質循環」、これをキーワードにしてはどうかと考えました。

つまり、家庭に入って来るまでの物の流れ、家庭で使われ、次いで家庭から外に出ていった後の物の流れ、こうした物の流れを追いかけていくことで様々な問題が見えてくるのではないかと思ったのです。すると当時のことなので、オゾン層破壊の問題、地球温暖化の問題、酸性雨の問題という地球環境問題、一方では生活排水と川の汚れ、ごみ問題などの地域環境問題とぶつかることになりました。そしてごみについても勉強を始めました。

一方、ゼミでは本を読むだけでなく、できるだけ実際に体験してもらいたいと考えていました。あるとき、生ごみ処理のことが浮かんできて、生ごみの堆肥化は学生たちと取り組むのに最適ではないかと思ったのです。生ごみは誰でも出すものでもあり、家庭用の生ごみ処理器があれば、自分たちで処理ができるものでもあるわけです。

国分寺の「コンポストアミー」というグループに力をお借りして生ごみ処理を始めました。学生食堂から食べ残しをもらってきては、処理器に入れかき回すということを学生たちと毎日のようにやっていました。

最近、認識を改めたことがあります。最近の市民ごみ大学セミナーで、ゼロ・ウェイストをテーマに葉山町や町田市の方々が来られたことがあり、これをきっかけとしてゼロ・ウェイストに関心を持ち、調べてみました。実は、それまで私はごみをゼロにするのは無理ではないか、非現実的なものではないかと考えていました。ところが、ゼロ・ウェイストは浪費をなくして廃棄物の発生そのものをゼロに近づけていこうとするものであり、いくつかの事例を学び、認識を改めました。最近の清掃工場の建設問題や、清掃工場を減らそうという動きにも関心を持っています。

ごみ大学セミナーは、このように現在進行形の問題を取りあげて、NPOの方々や自治体の方々など担当者が現場の生の声を伝えてくださる貴重な機会となっていると思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。

